

困難な時こそ組合の出番

中村隆幸委員長の開会挨拶



中村隆幸中央執行委員長

大会に参加された仲間の皆さん、おはようございます。東京土建第75回定期大会の開催にあたり、ごあいさつを申し上げます。

今、ウクライナでは、ロシアの軍事侵攻により大変な状況となっております。世界的大問題となっております。報道をみると、民間人を含み多くの被害が出ています。東京土建は、この暴挙に対し、いち早く声明を出しました。改めて平和の重要性がハッキリし

たのだと思います。さて、日頃は組合の諸活動、諸運動へのご理解ご協力、ご奮闘に心より感謝を申し上げます。この一年もまたコロナウイルス感染拡大の恐怖と抜

け出すことができない経済危機という1年でありました。コロナが騒がれ始めて丸2年が経ちました。一昨年に続いて様々な活動の制約を受けながらも窮状を訴える仲間

に寄り添いながら建設アクション運動と組織拡大運動を同時に進めてまいりました。特にこれまでも現場での感染リスクを訴える声が組合に数多く寄せられ、休工になれば、即、収入減につながる私たちが現場従事者にとってPCR検査と休業補償と国や自治体による助成金等の確かな拡充こそが、感染予防につながる

ことが明らかであります。持続化給付金をはじめ月次支援金や事業復活支援金等、助成金の相談では多くの仲間の声に心えられたのではないかと思います。そしてこれら

を同時に進めてまいりました。月17日の画期的な最高裁判決以降、一人親方を含み国に対してほぼ全面勝利という内容で今日までできております。そして今年1月19日より給付金の申請もスタートしました。

た宮島さんをはじめ、多くの原告被害者の方々が亡くなられています。裁判によらない給付金支給をめざし、早期の全面解決と補償基金制度の創設、そしてアスベスト被害の全面根絶に向けて引き続き頑張っております。

もう1点は昨年の大会に続き、未来の会の関係の裁判の経過報告と特別決議を今定期大会の場で行なわなければなりません。この限られた時間の中で、仲間の皆さんに不安とご迷惑をおかけしていることを改めてお詫びを申し上げます。75周年の節目を迎える今年度はより多くの仲間の総力を結集し、魅力ある建設産業に向けて建設労働者・職人の処遇改善をはじめ、担い手確保、育成などの取り組みをさらに前進させなければなりません。東京土建の方針に団結

処遇改善に向けて 方針に団結、ともに前進

多くの仲間の要求を自治体要請行動も含め全支部で取り組み運動の成果を仲間に返していきながら、困難な時こそ組合の出番だと、仲間のつながりを拡大月間でも生かしてまいりました。

アスベスト訴訟では昨年5月17日の画期的な最高裁判決以降、一人親方を含み国に対してほぼ全面勝利という内容で今日までできております。そして今年1月19日より給付金の申請もスタートしました。

た宮島さんをはじめ、多くの原告被害者の方々が亡くなられています。裁判によらない給付金支給をめざし、早期の全面解決と補償基金制度の創設、そしてアスベスト被害の全面根絶に向けて引き続き頑張っております。

もう1点は昨年の大会に続き、未来の会の関係の裁判の経過報告と特別決議を今定期大会の場で行なわなければなりません。この限られた時間の中で、仲間の皆さんに不安とご迷惑をおかけしていることを改めてお詫びを申し上げます。75周年の節目を迎える今年度はより多くの仲間の総力を結集し、魅力ある建設産業に向けて建設労働者・職人の処遇改善をはじめ、担い手確保、育成などの取り組みをさらに前進させなければなりません。東京土建の方針に団結

し、ともに前進することを心からお願いを申し上げます。最後になりますが昨年の総選挙と東京都議会選挙の結果を踏まえ、7月に行なわれる

参議院選挙に挑みます。東京土建は政党支持の自由、思想信条の自由を厳格に守りながら、私たちの要求をしっかりと掲げ、投票を呼び掛けてい

きます。本日お集まりの仲間の皆さんをはじめ組合員と家族のご多幸とご健勝を心より祈念し、執行部を代表してのごあいさつとします。

2022年3月21日 東京土建一般労働組合 第75回定期大会

新中央執行委員会

- 〈中央執行委員長〉 中村 隆幸(杉並)
- 〈中央副執行委員長〉 石川 信一(北)
- 佐藤 豊(目黒)
- 渡辺 義久(三鷹武蔵野)
- 石村 英明(府中国立)
- 丸山 篤義(多摩・稲城)
- 松本 久人(江戸川)
- 〈書記長〉 小番 徹(北)
- 〈書記次長〉 中原 收(小平東村山)
- 中宿 稔(三鷹武蔵野)
- 熊切 健一(杉並)
- 木村 潮人(江戸川)
- 北川 誠太郎(世田谷)
- 〈常任中央執行委員〉 塩野 操(大田)
- 榎山 剛志(多摩西部)
- 川口 敏彦(調布)
- 大木 栄一(江東)
- 千葉 一郎(目黒)
- 小坂 剛(西東京)
- 後藤 英雄(葛飾)
- 上原 誠(練馬)
- 土橋 弘典(豊島)
- 佐藤 里志(渋谷)
- 〈専従常任中央執行委員〉 栗橋 宏(墨田)
- 山本 高明(中野)
- 吉川 豊(文京)
- 茂呂 裕一(江東)
- 佐藤 広平(豊島)
- 唐澤 一喜(練馬)
- 田村 彰宏(世田谷)
- 御崎 誠人(港)
- 黒木 強(多摩・稲城)
- 〈中央執行委員〉 真木 泰久(足立)
- 津田 宗久(荒川)
- 及川 光太郎(葛飾)
- 奥村 歳久(文京)
- 寺山 邦裕(台東)
- 藤川 善清(墨田)
- 富樫 康弘(江東)
- 遠藤 喜世志(江戸川)
- 山本 清志(板橋)
- 宮本 卓廣(豊島)
- 渡辺 勝二(北)
- 福岡 忠行(練馬)
- 出井 章史(港)
- 小林 紀久夫(品川)
- 井澤 典一(大田)
- 佐藤 忍(目黒)
- 小倉 常良(渋谷)
- 秋元 正真(世田谷)
- 伊藤 賢司(新宿)
- 阿部 秀晴(中野)
- 鎗田 登美雄(杉並)
- 島村 新(三鷹武蔵野)
- 宗像 勇(狛江)
- 佐藤 眞理子(調布)
- 清水 政廣(多摩西部)
- 宮崎 透(西多摩)
- 鯉淵 勝也(小金井国分寺)
- 宮澤 和也(府中国立)
- 矢吹 一幸(八王子)
- 高木 一(日野)
- 三橋 誠(多摩・稲城)
- 尾花 慎司(町田)
- 井上 清一(小平東村山)
- 前川 達夫(清瀬久留米)
- 島崎 慶一(西東京)
- 宮澤 良明(村山大和)
- ＊書記、ブロックより一人 小藤 隆之(東部B)
- 実川 英治(江東B)
- 井口 和良(城北B)
- 五日市 浩志(南部B)
- 高木 夏子(西部B)
- 牧岡 善隆(多摩東B)
- 市川 耕平(多摩西B)
- 澤海 比可瑠(多摩南B)
- 砂川 恵(多摩北B)
- 〈常任中央執行委員待遇〉 西岡 貴之(杉並)
- 松広 高幸(練馬)
- 中村 哲郎(西東京)
- 山本 繁樹(江東)
- 栄 大翔(調布)
- 君塚 徳子(町田)
- 〈中央執行委員待遇〉 三宅 修平(杉並)
- 小野瀬 有香(江東)
- 鶴澤 文昭(江東)
- 〈会計監査〉 柴崎 憲一(西東京)
- 花岡 康雄(江東)
- 穴澤 秀康(板橋)

＊任部分担は次号掲載予定

東京土建第75回定期大会 大会宣言

東京土建一般労働組合第75回定期大会は、新型コロナウイルス感染症がつかない規模とスピードで猛威を振るう困難な状況下、運動の到達点を総括し、新たな運動方針を確立しました。

コロナ禍3年目、政府の対策は依然として不十分です。医療は拡充どころか削減を進め、窮状にある事業者・労働者への支援も不足、検査・ワクチンも後手のまです。対策の抜本的強化が求められます。

長きにわたる大企業・富裕層優遇と国民生活切り捨て政策は、社会の矛盾を増大させました。労働法改正による非正規雇用の増大、物価高、消費税増税と免税事業者排除につながるインボイス導入、憲法に規定する国民の生存権保障を放棄する社会保障連続改悪が、貧困と格差を広げ、国民を疲弊・困窮・不安の淵に立たせています。小池都政による都立病院独法化の動きも見過ごしにできません。

新自由主義の悪政がもたらした矛盾がコロナ禍で噴出する中、その見直しの必要性は明らかです。

昨年10月の総選挙で、私たちは国民本位の政治への変革を求め、仲間に投票を呼びかけました。岸田首相と政府与党は「新しい資本主義」「新自由主義の転換」など、こ

れまでの政治との違いを演出して政権を延命しましたが、その政策に新自由主義からの脱却の兆しはまったく見られません。私たちは、国民各層・地域諸団体と連帯し、賃金引き上げと中小零細事業者支援、社会保障拡充、庶民増税とインボイス導入の中止を求め、国民主権を貫く政治を実現するため奮闘します。

コロナ禍のもと、仲間からは「仕事が中止、延期になり収入が大幅に減った」、「現場で感染対策がとられておらず不安」、「資材高や納入遅延で仕事の見通しが立たない」など、悲痛な声が多数寄せられています。東京土建は首都圏の仲間とともに「誰ひとり取り残さない建設アクション」を展開、全都で累計2万もの相談に対応して仕事とくらしを守るとともに、その切実な要求を国・自治体・大手建設企業に突き付け、支援制度の創設や現場実態の改善などの成果を勝ち取ってきました。建設労働者の処遇改善では、公契約条例を都内11自治体に広げ、技能評価と連動するCCUS普及や大手企業とのパートナーシップ協約、労働者供給を通じた協約締結などの成果を勝ち取りました。防災減災の視点に基づく自治体との連携やウッドショックを受けた国産材活用の推進、建築カレッジや技術研修センターを通じた仲間の技能向上など、仕事の受発注環境や技能向上を着実に進めました。13年に及ぶアスベスト訴訟のたたかいでは、5月17日の最高裁判決で国と建材企業の責任基準が確定。首相が原告に謝罪し、最高裁判決を超える水準の給付金制度を創設させる、歴史的な前進を築きました。

こうした到達を確信に、仲間の仕事とくらしを守る運動の一層の発展に全力を挙げます。コロナ禍で、共済会や国保組合の諸制度が仲間のく

しを支えてきました。国民的運動課題の前進とともに、制度維持拡充の保障である、共済推進や国保補助金獲得に引き続き注力します。

平和憲法が危機にさらされています。総選挙の結果、衆議院では改憲勢力が国会発議に必要な3分の2の議席を得ました。岸田首相は9条改憲に強い意欲をしめし、敵基地攻撃能力の保持、台湾有事の際の集団的自衛権行使など、この間の中国の行動に乗じて戦争をあおる言説・動きが強まっています。

7月の参議院選挙は、憲法を守る正念場となります。私たちは、「建設労働者は二度と戦争のための工事をしない」の決意のもと、冷静な対話による紛争の解決を求め、憲法を守るために全力を尽くします。

私たちは、本大会において、「建設アクション運動」の一層の前進、地域における多数派結集、民主的で人が育つ明るい建設産業の実現、税と社会保障大改悪の阻止、憲法と平和・民主主義を守り活かす諸運動に全力を挙げること、その組織的保障である「嵐に揺るがぬ組織づくり」を進め、基礎組織である分会・群の機能回復・再活性化で組織減少に歯止めをかけ、1%増勢を勝ち取る決意を新たにしました。ここに、本大会のスローガン「建設従事者の仕事とくらしを守る要求実現と社会変革をめざし、組織拡大・確立強化と大衆運動強化をすべての仲間と共に！」を高々と掲げ、仲間の切実な諸要求の実現のため、組合方針に固く団結し、不退転の決意で奮闘することを宣言します。

2022年3月21日 東京土建一般労働組合 第75回定期大会